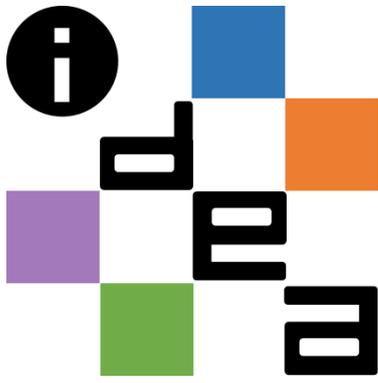


NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。
ニュースレター アイデア



2019
2月号

つながり×ひろがる

いちのせき市民活動センター



- | | | |
|---|------|------------------------|
| 1 | 二言三言 | 「移住者」と「地域」のつながりをどうつくるか |
| 3 | 団体紹介 | かわさき川柳同好会（川崎） |
| 4 | 地域紹介 | 大東興田 天狗田自治会（大東） |
| 5 | 企業紹介 | 小山太鼓店（室根） |

「移住者」と「地域」のつながりをどうつくるか

対談者 陶工房 陣の里 菅原 仁^{ひとし} さん

聞き手 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺 浩樹

一関市滝沢出身の菅原さんは、関東での仕事を早期退職し、卒業した旧真滝中学校の校舎の部材を使って建てた「陶工房 陣の里」を平成 23 年に開業。地域の交流スペースとして場所を提供する取り組みや、一関にUターンしてみて感じたことを伺いました。

取り壊されてしまう母校を保存したい

【小野寺】菅原さんが一関にUターンしようと思ったきっかけは何だったんですか？



陶工房 陣の里
菅原 仁 さん

【菅原】僕は一関に来る前、国交省で主に鉄道関係の仕事をしていたのですが、地域振興にも携わっていましたし、背景として全国的に統廃合になった校舎を地域おこしに有効活用する取り組みも知っていました。平成 20 年に僕が卒業した旧真滝中学校の校舎が解体されるという話を聞いたものですから、それを地元でやってみようと思ったのがきっかけです。当時、私の親は老々介護をしていて、僕は実家の長男なのでいずれは戻ってこなければならず、その時期が合ったというか。それに、20 代の頃に夢だった陶芸家にも挑戦してみたくて。

【小野寺】「陣の里」は、ギャラリーや交流スペースとして色々な方に活用していただいているそうですが、屋内には校舎だった時の名残をあちこちに感じますね。建物の設計もされたんですか？

【菅原】土木設計の経験もあったので、図面は自分で引きました。解体前の校舎を写真で撮っておき、○番

の部材を○番に配置するよう大工さんに指示したりしてね。教室は丁寧に壊して、職員室の受付窓、技術室のシャフト、工作机とか、残したいものを選んで建物に組み入れました。

【小野寺】昔の学校や教室って趣がありますよね。それを建物に組み入れようという発想がすごいです。地域では具体的にどのような使われ方をされているんですか？

【菅原】団体の会議、女子会、講演会、音楽コンサートとか色々です。埼玉の太鼓集団が、東北ツアーの一環で2週間ほど滞在したこともありました。庭で太鼓の練習をしていたら地域の人たちが気になって集まってきて、そこで地域と交流したり。ある意味、仕掛けているんですけどね。

個人所有の家ですが、校舎の部材を活用していることから「地域の共有財産」「地域資源」とであると捉えていて、皆さんにレトロで木の温もりを感じていただき、リラックスした雰囲気を利用していただけるよう心がけています。



「陣の里」外観と内部の写真

移住者は私たちの身の回りに

【小野寺】先ほどの、他地域の方と地元の方との交流がポイントになっているかと思いますが、やはり人が繋がっていくと活性化されてきますよね。最近は移住定住が流行りですが、菅原さんの目から見ていかがでしょうか？

【菅原】私はこれまで移住定住の成功事例しか聞いて

いないのですが、移住者は意外と身の回りにいて、それぞれの活動をしながら皆頑張っているようです。地元の人が気づかないところにもよく気づきますし、活動家として周辺の人を魅了したり繋げたり。興味本位なのか、地元の人にも野菜を差し入れたり畑の作り方を教えたり、そんな良い意味でお節介を通じて交流が生まれ繋がったりしています。でも移住者同士の横の繋がりは少ないように思います。

【小野寺】移住者同士の繋がりは少ないのですか？

【菅原】繋がりが少ないというか、そもそもお互いを知らないんですよ。もったいないと思います。

【小野寺】移住してきた方同士の繋がりもですが、移住してきた方と地域の繋がりもですよ。もともとの地域コミュニティがありながら、そこにはまだ知られていない色々な人がいるので、そういう人たちをいかに表舞台に出させていくかが最近すごく大事な役割だと思っています。

【菅原】たまたま僕は民生委員や自治会の副会長、市民活動団体の事務局長などをやらせてもらっているので、そこで地域と繋がり、僕のことや陣の里の活動も知ってもらっていますが、それがなければどう地域と繋がるかですよ。

【小野寺】なので、いかに人を紹介する仕組みを作らねばですよ。特に移住してきた方は、既存の地域の方からすると人となりがわからないでしょうから。

【菅原】僕のように地域の役員でもしていなければ地域の活動を外から見ると見えないし、周りからのヨソモノという見方が取り払えないと思いますね。

【小野寺】移住者同士のネットワークをつくりつつ、移住者と既存のコミュニティを繋ぐネットワークもつくる。この2方向がすごく大事だと思います。やはり「人」と「成り」を紹介する、一役買うポジションの人を構築していかないと改めて思いました。



①玄関右手には職員室の小窓を設置 ②レトロなマシンコレクション ③技術室から移動したシャフト（天井）

「自己実現」によるライフスタイルの確立

【小野寺】「移住定住」というより、自分のライフスタイルの確立ですよ。自分のライフスタイルをどうつくっていくかという中で、一関というまちや土地があったりする感じなのだと思います。

最近「自己実現」がキーワードになっているとも言っているんですよ。「自分のやりたいことができる地域で暮らしたい」という考えで、都会だけでなく、田舎を選ぶ人たちが増えてきているようです。「古民家で生活してみたい」とか「田んぼをやってみたい」とか。自分の思いを実現させるためにライフスタイルを確立しているようです。特に震災以降に自分の出身地を見つめ直したり故郷回帰する人たちが増えてきたとあって、Uターンや2拠点居住で、東京で生活しているけれど週末はこっちで活動するという人たちも増えてきている感じはありますね。



レトロな雰囲気の中開催されたジャズコンサート

【菅原】市内でも2拠点居住で行き来している方もいますよ。

私はもう少し地域を活性化できないものかと考えたりするんですが、やはり新しいものを創出するには、年配の方だけでなく若い人の考えや発想も必要ではないかと思うんです。今までの地域の流れやかたちづくられたものがありますが、その中で残すものは残し変えるものは変えるとか。お付き合いしていく中で少しずつ刺激し合いながら変化を望んでいます。

それもこれも、ある意味、地域の役員をしているから発言できる場がありできていることですけどね。皆それぞれ思いや言いたいことがあるんですけど、発言の場がないと何もできませんから。やはり発言の場をつくるのが大切ですよ。

陶工房 陣の里

住所：〒021-0132 一関市滝沢字寺田下 85-1

電話：0191-48-3376

HP：「陣の里」で検索

団体 紹介



会員のみなさん

～基本情報～

- ◆会長：いとう 滋 様
- ◆住所：〒029-0202
一関市川崎町薄衣字陳が森 216
- ◆電話：0191-43-3062
- ◆顧問・講師：内田 正好 先生

「5・7・5」で会員と地域に笑顔の輪を

「楽しく」を大切に。笑い声が響く月1の定例会

「ゆるやかな 流れひょうへん E ポート」

この川柳は、「北上川」をお題に、川崎中学校の生徒が詠んだ句です。

平成10年に設立された「かわさき川柳同好会」は、川崎公民館が開催していた川柳教室を引き継ぎ、その生徒有志が同好会として立ち上げた会で、現在は15名の会員が月1回の定例会に集まり、互いに腕を磨き合いながら楽しく活動しています。詠む句は真面目なものばかりでなく、日頃のできごとを皮肉交じりに表現したり、思わずクスッと笑ってしまうようなものも多いそう。会員同士で「いいね!」「おもしろいね」と褒め合い笑い合い、楽しむことを大切にしています。

「自分や会員の句が地元新聞や広報に載ると、それを見た方から『読んだよ』『良い句だね』と道端で声をかけられるのが嬉しい」そう微笑むのは、事務局長の菅原孝さんです。新潟県出身で、平成26年から一関市に移り住み、翌年に同会に入りました。「川柳はすぐ頭に浮かぶ時もあるけれど、一晩かけても閃かない時もある。自分はイマイチだと思っても、ほかの人からは絶賛される時もある」と、川柳の難しさやおもしろさを口にします。

20年間の集大成! 3,686句を収めた初の句集

最近の大きな活動として、設立20周年を記念した句集「思い出の五七五」の発行と、町内全戸を対象にした「川柳投句募集」があります。

句集「思い出の五七五」には過去20年分の作品、計3,686句を2冊に分けて収録。制作は菅原さんが過去の句全てをパソコンに打ち込むことから始めたそうで、「制作に時間がかかった分、完成した時の達成感は大

一倍でした」と振り返ります。句集は川崎図書館に寄贈され、どなたでも読むことができます。

町内全戸に参加を呼び掛けた「川柳投句募集」

「川柳投句募集」は、①自由詠（お題を設けない句）と②題詠「北上川」の2部門を設け、町内全戸に川柳を募集した取り組みで、故郷の素晴らしさや日常生活の温もりを再認識してもらおうと企画。記事冒頭で紹介した一句は応募作品のひとつです。同会では、大人だけでなく子ども達にも川柳に親んでももらいたいと川崎小学校と川崎中学校にも募集を依頼すると、中学校の校長先生から「生徒に川柳の授業をしてほしい」と逆にお願いされ、「すごいお話をいただいた!」と驚きながらも依頼を承諾。授業では川柳の基礎やコツを伝え、その場で川柳づくりにも挑戦しました。

全体では148人の方から261句の投句があり、そのうち30句が入賞。最初は「川柳なんて難しくてできない」と躊躇^{ためら}っていた方も、菅原さんに背中を押され投句したところ見事入賞を果たしたという嬉しいエピソードも。表彰式は川崎市民センターで行われ、投句した全員に「応募投句作品集」の冊子とボールペンを贈呈。「今回の事業を通して、少しでも地域の方たちが生き生きしてくれたのなら嬉しいし、これを機に将来作家や小説家を目指す子がでてくれれば」と期待します。

川柳を通して笑顔になり、家庭内や地域での会話のきっかけにもなればと取り組んだ今回の事業。今後も「楽しく」をモットーに、読む人の心も笑顔にする川柳を楽しみにしています。



定例会では会員同士で作品を批評し合いながら添削しています。

地域紹介



右：自治会長 菊池一美さん
左：事務局長 小山勝紀さん

～基本情報～

- ◆会長：菊池一美さん
(区長兼務、5期11年目)
- ◆天狗田自治会は、天狗田と上天狗田の2つの行政区から組織され、107戸・316人、全戸全員が会員となっています。

「まだ来年もやっぺすね」各世代が協力しながら継続していく

集落独自の振興会活動からの再編

「みんなすごく協力的。それが自治会の自慢」、天狗田自治会長である菊池一美さんが取材前に発した一言です。菊池さんは、上天狗田行政区の区長と兼務しており、71歳ですが現役で仕事をしながら集落をまとめています。50代の頃から区長を務め、時代の流れとともに集落の変化に対応してきた菊池さんは、「75歳以上の一人暮らしも増えてきており、高齢化が進んでいることが課題」と語りますが、自治会活動に対する若者の関わり方が積極的で、集落の高齢者もとても元気であることが伺えます。

同自治会は、昭和52年に発足した天狗田振興会が前身となっており、2行政区の親交を深め集落共助の力で盛り上げていこうと、平成7年に現在の組織へと再編しました。集落の拠点となる自治会館は、「天狗田生活改善センター」という名称で、平成12年に旧大東町から購入し、所有管理は同自治会となっています。

組織は会長、副会長、事務局長、事務局（兼会計）、理事（運営委員）のほか、管理者に同生活改善センター長を置き、専門部を6つに分け活動しています。

自治会費は年3,000円（各戸）ですが、自治会費を上げないために環境衛生部がまとめる資源回収に子ども会が協力するなどの工夫を行っています。

継承は小学校の統合から地域の絆へ

平成18年、132年の歴史に幕を閉じた天狗田小学校では、学校の取り組みの1つとして“天狗田代々神楽”を継承してきました。この指導をしてきたのが天狗田代々神楽保存会のみなさんです。小学校が統合したことにより、子ども達への継承活動がいったん途絶えましたが、自治会での話し合いによりこの活動を集落で子ども達に伝えていこうと決意し、平成27年から保存会も本格的に再開。夏休みなどを利用して、その継承活動を復活させました。この復活には、小学校時代に

経験したという高校生らが保存会員とともに指導にあたり、若者有志の姿に地域の方々も奮起し、その復活に心から喜んだと言います。

それぞれの世代が楽しめる季節行事の継続

1月の新年交賀会、8月の夏祭り、11月の収穫祭。これは同自治会が誇る“三大イベント”です。特に、昨年開催された第23回天狗田夏祭りには、子ども達や帰省客も合わせ約300人も集まり、自治会内の若者が積極的に運営に携わりました。メインの打ち上げ花火や大抽選会の景品などは地元企業や団体などから提供していただいております。「23回も継続できているのは、地域の方々の協力があったからこそ。特に若者の力には本当に感謝している」と菊池さん。「事務局長作成のポスターやチラシも『行ってみよう!』という一つの起爆剤になっている」と続けます。

秋の収穫祭では、軽トラ市、自治会員制作品の展示、天狗田わぎやひたず（若人達）によるのど自慢、老人クラブによる余興のほか、リンゴ皮むき選手権や縄ない選手権など各世代が無理なく楽しめるプログラムが充実。その中でも、10年ほど続いているという「興田中学校吹奏楽部」の公演は、1・2年生の新体制デビューの場として確立しており、「人前で演奏する初めてのステージを提供することで、子どもたちも学ぶところがあると思うし、なにより生で音楽を聴ける良い機会だ。今後も、無理のない範囲で協力をもらいながら、神楽の伝承や季節行事などを続けていきたい」と語っていただきました。



企業紹介



代表 小山健治さん

～基本情報～

- ◆代 表：小山 健治 さん
- ◆住 所：〒029-1202
一関市室根町矢越字千刈田 46-4
- ◆電 話：0191-64-2056
- ◆F A X：0191-64-2036
- ◆U R L：http://www.oyamataiko.com

初代から受け継いだ技術と知識を活かし、オンリーワンの太鼓を届けたい

戦時中の経験を活かし和太鼓製作へ

一関市は古くから地域ごとに郷土芸能や祭りが盛んな土地柄です。舞手などの動きに合わせ軽快なリズムを刻む“和太鼓”が中でも演舞の要ともなっています。

さまざま場面で出番の多い和太鼓ですが、製造場所は全国的に少なく、岩手県内では5箇所だけ。しかしその内の2箇所は、一関市内に工房を構えています。

その1つである室根町の小山太鼓店さんは、昭和24年に、現代表で和太鼓職人・和太鼓調律師の小山健治さんの祖父小山徳男さんが創業しました。当時から原木の削りだし、胴作り、革なめし、革張り、金具の取り付け、^{びょう}釘打ちに至るまでの全行程を行う職人が「木から製品まで一貫生産体制」で太鼓作りを行っており、今年で創業70周年を迎えます。この一貫生産体制は、初代の奇跡的な出会いや経験、発想力が積み重り築き上げ確立できたものでした。

「祖父は、青少年義勇軍[※]として15歳の時に満州に渡り『なにか手に職を』と考えていた頃、偶然一緒に渡った方が秋田で桶職人をしており、その方から桶作りの技術を学んだそうです。その後はソ連の捕虜としてシベリアに渡り、その時には皮なめし工場で働き技術と知識を習得。帰国後、故郷の室根に戻り、家族を養うためにと様々な仕事をしばらく続ける中で、たまたま交流のあった気仙沼市の漁師さんから『桶作りができて皮なめしの技術があるのなら、祭り用の太鼓を作ってもらえないだろうか?』と声をかけられ、未経験ながら和太鼓作りに挑戦したそうです」と、祖父の思い出と共に創業のきっかけについて三代目代表の小山さんは語ります。[※]青少年を満州国に開拓民として送る制度。

お客様から学び、こだわりの一品へ

太鼓作りの経験がなかった初代が、技術と知識を得られたのは「地域の方々のご指導があったから」と語

る小山さん。郷土芸能や祭りが地域や集落ごとに違いがあるように、太鼓へのこだわりも様々だと言います。また、太鼓は注文を受けるとすぐに完成できる商品ではなく、100年以上使い続ける長胴太鼓などは荒胴の状態です。5年～10年の歳月をかけて自然乾燥する必要があり、「祖父は依頼してくださったお客様や地域のオンリーワンを作るべく、完成までの長い年月の中で、その都度ご指導をもらい、お客様（地域や風習）と共に作ることにこだわりを持っていました」と振り返り、「そんな祖父を見て育ち、職人氣質な背中に憧れもありましたね」と続けます。

オープンファクトリー五感市との出会い

初代他界後は、二代目（小山さんの母）と共に二人三脚で受け継いだ技術と知識を活かし太鼓作りに励んできた小山さんですが「職人というのは孤独なもので、特に太鼓職人には組合などありません。製作中には『これでいいのだろうか?』と一人悶々とするこもしばしばありました。そんな中出会ったのが市内や平泉町内の異職種若者職人が集う“五感市”です。私は当初会員ではなかったのですが、興味が湧き会議があると聞きつけては飛び込みで顔を出していくうち仲間にさせていただきました。それぞれが単独の技術職人として培った経験を活かしつつ、新たなものを創造する“仲間”に大変刺激をいただいています」そう語る小山さんの技術や知識だけでなく人と関わることも大切に、視野と可能性を広げるところは初代から受け継いだものなのかもしれません。



同店舗では、工場見学・太鼓作り体験教室（毎週土日、2週間前までに要予約）を開催しています。自分だけのオリジナルミニ太鼓の革張り体験ができますので、お気軽にお問い合わせください。

おしらせ

イベント

一関ハンドクラフト展 Vol.10

主催:可愛い生地屋レッドバタフライ

各地から集まった人気ハンドメイド作家たちによる商品の展示・販売を行います。色々な手作り体験、飲食、占い・癒しブースなども充実。3日間を通して、岩手県南最大級となる140店舗以上が出店します。

【期間】平成31年2月8日(金)~10日(日)

【時間】10時~16時(3日間共通)

【場所】なのはなプラザ2階

【料金】入場無料

【HP】<http://redbut.web.fc2.com/>

【問合せ】lovely@redbutterfly.biz(メール)

ワークショップ

生物の進化に学ぶ！
心が楽になる子育て

主催:地いき 楽しく アイビーナ

遊びが学び！生物の進化から読み解く子育ての新常識！子どもの行動に毎日イライラしたり怒って落ち込んだりしていませんか？なぜ子どもが言うことを聞かずそんな行動をするのか。生物の進化から読み解いた、あっ！と驚く新常識でより楽しい子育てに！

【日時】平成31年2月9日(土)14時~16時

【場所】なのはなプラザ3階 和室(予定)

【対象】子育て中の方

【料金】500円(お茶・お菓子代込み)

【問合せ】090-5238-9523(10時~16時)

セミナー

PCデータ整理で業務効率改善
~身近に出来る！生産性向上、
残業軽減に向けての第一歩~

主催:公益社団法人 一関地区法人会

散乱したフォルダやファイル、アイコンだらけのデスクトップ。必要なデータを探す時間の短縮につなげるパソコンの整理整頓術を、株式会社ミセル力代表取締役の上口まみさんから学びます。

【日時】平成31年2月13日(水)14時~16時

【場所】一関文化センター小ホール

【料金】無料

【定員】50名(先着順)※定員になり次第締め切り

【問合せ】0191-23-4243

((公社)一関地区法人会)

講座

自治会長サミット vol.7

主催:いちのせき市民活動センター

自治会運営に携わることから皆さんへ、生の声で「自治会運営のコツ」をご紹介します。今回は地域の絆づくりについて千厩町・木六自治会さんに、地域の役割を集約・調整し余裕ある活動を行っている花泉町老松・四日市場集落会さんに運営の仕組みを発表いただきます。

【日時】平成31年2月16日(土)13時30分~16時30分

【場所】川崎市民センター

【対象】市内自治会長または準ずる役職員の方

【参加料】無料

【問合せ・申込】0191-26-6400

イベント

昔ばなしと昔あそび

主催:いわいの里ガイドの会

一関地方に伝わる民話や伝説を、地元言葉で語り継いでいる「いわいの里ガイドの会」の語り部が贈る冬のお楽しみ。300年の歴史があり、当時の武士の暮らしを垣間見ることができる「旧沼田家武家住宅」で、昔ばなしと懐かしい遊びを一緒に楽しみませんか。

【日時】平成31年2月16日(土)10時30分開演

【場所】旧沼田家武家住宅(一関市田村町2-18)

【料金】入場無料

【問合せ】0191-21-8188(旧沼田家武家住宅)

募集

サケの稚魚放流 in 滝沢川

主催:KMY(狐禅寺・みんなして・やっべし)プロジェクト実行委員会

川の環境保全や地域への愛着心を育むことを目的に、サケの稚魚5,250匹を滝沢川に放流します。稚魚放流後は狐禅寺市民センターで甘酒を振る舞います。長靴と寒くない服装でご参加ください。

【日時】平成31年2月16日(土)10時開始

【場所】狐禅寺市民センター

【参加料】無料

【申込締切】平成31年2月6日(水)

※狐禅寺地区以外にお住まいの方も参加できます。

【申込・問合せ】0191-21-2155(狐禅寺市民センター)

イベント

寒さに負けるな！元気な風の子！
2019 第10回 館ヶ森風祭り

主催:エコール館ヶ森 花と泉の公園

チョコパン&ピザ作り体験やテラリウム&ハーバリウム体験など、親子やお友達と一緒に楽しめるコーナーをご用意しています。11時からの「足氷風呂ガマン大会」では、各施設賞を6名(2回分)にプレゼント！12時からは豚汁お振舞いもごさいます。

【日時】平成31年2月17日(日)10時~

【場所】花と泉の公園

【料金】ベゴニア館入場無料

※各体験コーナーでは参加料がかかります。

【問合せ】0191-82-4066

紹介

地域づくり活動のお助け本
「+NOTE」(タスノート)

いちのせき市民活動センター

「+NOTE」は、地域づくりに取り組む皆さまの一助にさせていただこうと、地域づくり活動に必要な基本的な知識から、いちのせき市民活動センターのスタッフ一人ひとりがつまみポイントを凝縮した本です。地域づくり概論から始まり、地域協働の進め方、話し合いの仕方など全7章で構成。皆さんのスキルに「プラス(+)」になり、時には「お【たす】け役」になりますよう、ぜひご活用ください。

【価格】一冊1,000円(税込)

【問合せ】0191-26-6400

イベント

また来night☆

主催:民泊&ゲストハウス「またきたい」

皆で集まり、お酒を飲みながら交流したり情報・意見交換を行う自由参加型の飲み会です。仲間探し、仕事や作品のPR、企画へのアイデア募集など様々な話題を持ち寄り、みんなで楽しく語り合しましょう。

【日時】毎週金曜日 19時~ ※都合により開催しない週もございます。必ず事前にお問い合わせください。

【場所】またきたい(一関市滝沢字寺田下54)

【参加料】宿泊付き3,800円、宿泊なし2,000円

(仕出し、つまみ等の食べ物付き)

【持ち物】お酒 ※種類により本数など条件あり

【問合せ】0191-78-0700 【HP】<http://matakitai.com>

今月の表紙



こちらは一関市狐禅寺にある、あいぽーとから見た夕陽の写真です。空気が澄んで、夕陽のオレンジ色が空の水色と混ざって美しいグラデーションを描いていました。

Q&A

あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q NPO法人は「法人事業税」を支払わなければならないの？

A 「法人事業税」は法人で収益事業を行う場合に課税されます。税率は、所得金額が年400万円以下だと2.7%、400万円~800万円だと4%、800万円を越えると5.3%という3段階があり、法人事業税は以下の計算式で求めることができます。

〔法人事業税額=所得×法人事業税率〕

